

第二 1907年「癩予防二関スル件」

1847	瘍科秘録	本間玄調	天刑（医学入門より）、自発は魚肉食による、血脈が多い、難治、温泉・灸治を世人は好むが否定
1848	遊相医話	森立之	難治、父母先天の遺毒、父子相伝、血脈を逐て発病、食毒の癩は治し安い
1850	究理外科則	新宮涼庭訳	白癩・黒癩・白頑癩、発汗剤内服
未詳	客中証案	高野長英	治験記に「天刑の類、難治の病」、放血
1853	癩風弁	帆足万里	大風子により10に2, 3は治る
1856	雑病広要	多紀元堅	中国医学学説整理
未詳	時還読我書	多紀元堅	上州の治癩の名医、五、六人の癩夫が奴隷となり治療受ける、食毒の癩の例
1857	扶氏経験遺訓	緒方洪庵訳	ヨーロッパは中古癩病院のために今重症患者なし、東方癩は著しく「伝染」（病形により伝染性が異）
1871	列夫良病考	後藤昌文	血液病、長く深室に幽閉、貧人は薬を買えず深室もなく神仏霊場巡拝と称して家を出る
未詳	自準亭日診雑識	本間東軒	天刑の診察例
1886	治癩訓蒙	松田源徳	下等社会は癩者の結婚も珍事でない、沿海や寒村の屠畜者が魚獣肉食等最下等の生活で癩に、遺伝、寄生虫
未詳	癩治方一卷	大崎玄澄記	秘伝書集
未詳	癩疾方雑録	椿原山人	諸書からの秘伝
未詳	弘法大師現伝の秘薬	堯栄筆写	原本三宝院本、昭和7年写、黒癩=子孫より伝、血液検査
未詳	癩病秘伝奇方録	未詳	諸書の写し、弘法大師現伝秘薬、南蛮流癩療治秘書など
未詳	南蛮流癩病療治並製剤記	未詳	先祖よりの癩は不治
未詳	南蛮流癩瘡秘伝書	未詳	淫の切薬、孺生七日の間に死んだ者を黒焼きに
未詳	阿蘭陀外科奥抄	未詳	カスハル家伝、人の肝黒焼き薬
未詳	癩風方	未詳	諸書の写し、南蛮流など
未詳	癩病療治之書	未詳	雷丸、明治25年筆写
未詳	癩病秘法	北條先生伝	胎毒・母・悪食・風水悪血にあたる・血多者・インウン多し
未詳	湘雲瓊語附録4	未詳	甘雨亭叢書、今の癩は癩虫による